

2021年度 事業報告

はじめに

■基本方針

目的達成に向けて事業の継続をめざす。

2019年12月に発見された新型コロナウイルスは、2021年の中旬に感染者数が一端減少したにも関わらず、変異を繰り返しながら暮れから今年にかけて再度感染拡大に至っています。

新型コロナウイルス関連倒産はこれまでに全国で2924件(帝国データバンク3月1日現在)に及び、非正規雇用やひとり親家庭等社会的に弱い立場の人たちにしわ寄せがいき、貧富の格差がさらに広がっています。

それと同時に、長引くコロナ禍で、様々な抑圧が未来を担う子どもや若者の心身に及ぼす影響も見逃せません。

世界的には、皮肉にも「平和の祭典である冬季パラリンピック」が開催される前に勃発したロシアのウクライナ侵攻は、パンデミックと向き合う現地の人々に二重の悲劇を引き起こしています。日増しに女性や子どもたちの犠牲者が増える中一日も早い停戦合意を願い、3月にウクライナへの緊急支援を実施。同時に店頭募金を呼びかけました。

コロナ禍2年目のチャリティショップとして感染防止対策を徹底しながら通常営業を続け、事業の継続を図りました。

売上が厳しい中様々な工夫でショップ運営に取り組み、おおぜいの力で今年も支援金を生み出すことが出来ました。

今年度はオンラインによる支援先報告会を開催し、コロナ禍の現地の様子を知ることが出来、支援先との新たなつながり方を考える機会となりました。

この1年間、様々な状況においても常に対処しながら、事業を進めることが出来ました。

I 特定非営利活動に係る事業

1 資源のリユース・リサイクルを推進する事業

[日時] 通年
[場所] 神奈川県内 及び近隣都県
[従事者人員] 32人 (理事、スタッフ、ボランティア)
[受益対象者] 市民
[支出] 15,582,375円

1-1) リデュース活動の推進

*引き続き啓発ポスターを掲示し、買い物袋持参への協力を呼びかけた。

1-2) リユース活動の推進

*長引くコロナ禍において感染防止対策を徹底しながら、チャリティショップ「WE ショップ厚木1号店」事業を継続し、一般市民等から寄付された衣類や日用雑貨等を販売し、環境への負荷が少なくなるようリユースを進めた。

2021年度活動実績表 人数は延べ人数 ()は前年比

営業日数	255日 (128%)
寄付者数	3221件(109%) 内新規 143件 (190%)
顧客数	20,323人(132%)
売上高	18,325,386円 (127%)

・4月～9月までは日曜、祝日の他に水曜日も定休日とし売上状況をみたが、売上減少が続いたので10月以降は水曜日を元の営業日に戻し、事業の安定を図った。

*着物文化への関心を広げるための「着付け教室」を開催。

・新型コロナウイルス感染拡大防止のためお休みすることも多かったが、着物文化を楽しむ時間を共有できた。(参加費 1回500円を講師に支払う。)

合計 7回開催 延べ 12人参加

1-3) リサイクル活動の推進

*寄付された品物の中でリユースできなかった衣類等をリメイクボランティアの「おりひめ」や布ぞうり製作ボランティアに託し、リサイクルを進めた。

*リユースできなかった衣類等を故繊維業者に託し、リサイクルを進めた。

搬出袋数 553袋 (≒3871kg)

*リユース出来なかった綿製品は、必要としている高齢者福祉事業所等に45リットル袋110円で提供しリサイクルを進めた。

提供した綿製品 26袋

1-4) 広報活動

* 寄付品募集チラシやローカルニュース発行と配布、店内広報の充実、ソーシャルメディアの活用を進めた。今年は法人全体の活動を紹介するリーフレットを作成した。

(1) 三つ折りリーフレットの作成

- ・ 1998年からの活動をまとめた内容で200部作成し、渉外活動に活かした。

(2) 寄付品募集チラシの配布

- ・ 5月 2021年度版寄付品募集チラシを10000枚作成し市内配布を実施。
今年度はポスティング業者に依頼し8000枚を市街地に配布。
7月 追加で5000枚作成し、各自ポスティングをした。
- ・ 市内森の里郵便局内に寄付募集チラシ100部を置いて頂いた。

(3) ローカルニュースの発行

「WE21 厚木ニュースNo.63」 発行日 2021年 7月 500枚発行

「WE21 厚木ニュースNo.64」 発行日 2022年 2月 500枚発行

(4) ソーシャルメディアの活用

- ・ フェイスブックにリアルタイムにショップ情報を載せるよう努めた。
- ・ ホームページでは、支援実行報告やニュース発行を迅速にアップし、情報開示に努めた。

(5) 他団体イベントに出店

- ・ 1/15「厚木時間」が主催する厚木住宅公園でのイベントに出店。東北支援の海産物やフェアトレード品等の販売を通じて、活動を知らせた。

2 アジア等における市民、とりわけ女性の生活の向上と自立のための

活動を支援する事業

[日時] 通年

[場所] 神奈川県内 及び近隣都県

[従事者人員] 28人 (理事、スタッフ、ボランティア)

[受益対象者] 市民

[支出] 4,255,459円

2-1) 国内外の寄付支援事業

* 国内のNPO、NGO団体を通じて、カンボジア、ネパール、ミャンマーにおける保育事業や若者の高等教育奨学金事業、難民キャンプの図書館事業への支援を行った。

*国内においては、在日外国人への医療サポート事業や、東日本大震災復興事業への支援を行った。

(1) 国内 NPO、NGO の海外プロジェクト支援の実施

支援総額：1,800,000 円

支援国等	NPO、NGO 団体名	支援活動内容	支援金額
カンボジア	認定 NPO 法人 「幼い難民を考える会 (CYR)」	「村の幼稚園」地域での継続支援	80 万円
ネパール	NPO 法人「ベルダレルネーヨ(ネパ リ・バザーロ)」	カンチャンジャンガ紅茶農園周辺の子 どもたちへの高等教育支援	80 万円
ミャンマー	公益社団法人 「シャンティ国際ボランティア会」	ミャンマー難民キャンプの図書館事業	20 万円

*はがき 171 枚を「幼い難民を考える会(CYR)」へ寄付した。

*外国コインを「ユニセフ」に寄付した。

*2022 年 3 月より「ウクライナ緊急支援募金」を開始した。

(2) 国内 NPO、NGO の国内の寄付支援

支援総額：400,687 円(店頭募金を含む)

支援地域	NPO、NGO 団体名	支援活動内容	支援金額
東京都及び 関東近辺	認定 NPO 法人「シェア＝ 国際保健協力市民の会」	在日外国人支援事業 外国人母子の保健医療サービスへの アクセス改善プロジェクト	10 万円
宮城県 気仙沼市	NPO 法人「プロジェクト K」	東日本大震災復興支援 気仙沼地域住民の生活支援(被災者交 流事業の継続、母親対象の子育て支援 事業、いのちの大切さを伝える事業)	100,687 円 (店頭募金＝ 32,787 円含む)
福島県 郡山市	甲状腺ガン支援グルー プ・あじさいの会	東日本大震災復興支援 福島県内の小児甲状腺がん患者と家族 及び支援者へのサポート事業	20 万円

(3) 東日本大震災被災地「気仙沼の産品」取り扱いによる復興支援

年間仕入れ金額：1,430,940 円

2-2) 国際理解を深めるための事業

(1) フェアトレードの推進

年間を通じてフェアトレード品を紹介し、フェアトレードの仕組みや「買い物によ

るもうひとつの海外支援」に関心を持つ人を広げた。

フェアトレード品 年間購入金額 483,025 円

フェアトレード品仕入先団体別購入金額 ()内は取り扱い商品の生産国、主な品

ネパリ・バザーロ (ネパール紅茶、カレー、他)	第三世界ショップ (ブラジルの珈琲、インドネシアの 塩、チョコレート、他)	横浜・珈琲工場&百屋 (フィリピンの珈琲)
100,418 円	366,126 円	16,481 円

(2) WE 講座の開催

WE 講座として広く外に向けて参加を呼び掛ける企画は出来なかったが、理事会メンバーを対象に、支援先の報告会を 3 回 Zoom によるオンラインで開催した。

11/10	幼い難民を考える会(CYR)	カンボジア活動報告
12/13	ベルダレルネーヨ(ネパリ・バザーロ)	ネパール活動報告
2/9	シャンティ国際ボランティア会	ミャンマー活動報告

(3) 「貧困なくそうキャンペーン」の開催

- ・「SDGs についての理解をすすめる」をテーマに、クイズ形式で質問と回答を掲載したチラシを作成しショップ内で配布した。(10 月中)
- ・「ハンガーマップ」を利用した支援先紹介のポスターを掲示した。

3 その他、第 3 条の目的達成に必要な事業

[日時]	通年
[場所]	神奈川県内 及び近隣都県
[従事者人員]	28 人 (理事、スタッフ、ボランティア)
[受益対象者]	市民 WE21 ジャパン・グループメンバー
[支出]	418,762 円

3-1) 組織運営

(1) 理事会の開催

- ・原則月 1 回理事会を開催し、総会で決議された法人年間事業を推進した。

(2) 会員

- ・法人会員にはニュースの送付等を通じて情報を開示した。

会員数 期首 78 名 期末 75 名

(3) ボランティアミーティング及びスタッフミーティング

- ・ボランティアミーティング及びスタッフミーティングを開催し情報を共有し、課題の整理、活動への提案につなげた。

ボランティアミーティング:3 回開催 スタッフミーティング : 12 回開催

(4) 地域とのつながり

- ・伊勢原養護学校伊志田分教室の生徒の研修受け入れ

1/31 2/1 2/3 2/4 10時から14時 高校1年生1名を研修生として受け入れた。

- ・「KTC おおぞら高等学院厚木キャンパス」の生徒の受け入れ

昨年に引き続きコロナ禍のため実施しなかった。

- ・「ヒューマンサポートネットワーク厚木(HSN)」への参加

新型コロナウイルス感染防止対策のため運営会議が開催出来なかった。

年間を通じてフェアトレード品の共同購入にご協力いただいた。

購入実績 270,398 円

※ご協力いただいた各事業所の皆さま

ケアセンターあさひ	保育園V i V i	おひさまっこ保育園
学童保育なないろのたね	くれよん保育室	デイルームとんとん

(5) WE21 ジャパン・グループ等との連携

- ・今年度は、実会場でのグループ会議が開催された。(7/7 及び 11/22 出席)
- ・8/27 8/31 WE ショップ海老名のスタッフ2名の研修を受け入れた。
- ・11/16 WE ショップちがさき店を訪問した。(火事見舞い)
- ・12/12 「チャリティショップ白書を読む会」のオンラインミーティングに参加した。